

老年看護学概論：高齢者体験の演習を行いました

国立看護大学校看護学部 2 年生は、平成 26 年 12 月 11 日と 18 日の 2 日間、約 50 名ずつに分かれて老年看護学概論の高齢者体験の演習を行いました。

教員からの説明の後、少人数グループに分かれて「高齢者」と「看護師」の役を体験しました。高齢者体験グッズを装着した「高齢者」学生は、実際に階段や廊下を歩き、自動販売機の表示や新聞・雑誌を見て、加齢による変化が日常生活にどのように影響するのかを実感しました。演習の後、ワークシートを用いて気づいたことを振り返り、レポートにまとめて提出しました。

平成 27 年 1 月 8 日には、冬休み中の課題である「高齢者の生活史とインタビュー」をふまえ、高齢者体験と高齢者インタビューで学んだこと、気づいたことを教室で共有し合いました。

以上を通して、高齢者の生活援助を行う看護の留意点の意味を再確認することができました。



高齢者体験グッズの装着方法について、教員の説明を聞いています。



仲間の手を借りて高齢者体験グッズを装着中です。



新聞や雑誌の「読める」文字の大きさや色を確認しています。



自動販売機では、表示がとても分かりにくいことを実感しました。



学生からは次のような声がありました。

「高齢者体験グッズを装着してみて、目も耳も、手足の感覚も、また肘や膝も、思った以上に不自由になることがわかりました。後ろから声を掛けられても、気づかないという感覚を実感しました。」

「大学校のオープンキャンパスで体験していましたが、看護師役は今日初めて体験しました。大きな声で身振り手振りの説明が必要で、高齢者の方を安全に誘導することがとても難しいと感じました。」

「街の中や家の中には、たくさんの危険が潜んでいることを実感しました。高齢者の方が何を考えて何をされたいのか、予測を持って接するようにしたいと思います。」

学生の皆さんが、この体験を通し、高齢の方々、障がいをもつ方々をより深く理解して、将来の看護師として成長して欲しいと思います。



階段を踏み外さないよう、支えながら声を掛けていました。